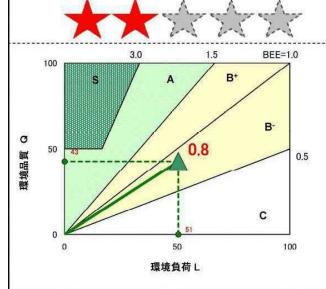
【八SBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称建設地	(仮称)神水1丁目マンション 熊本県熊本市中央区神水1丁目567	階数 構造	地上11階、地下0階 RC造	
用途地域等 省エネ・地域区分	市街化調整区域 7地域	平均居住人員 年間使用時間	103 人 8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年1月30日	
敷地面積	701 m	作成者	BLOOM Architect office	
建築面積	324 m ²	確認日	2025年1月30日	
延床面積	2,565 m²	確認者	BLOOM Architect office	

2 CASBEE評価結果

建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 0.8

■BEE(環境効率) = -

Q(環境品質)

L(環境負荷)

■環境効率評価基準

= \	ランク表示	5-0 /ac	判定值	
ランク	フンツ衣示	評価	BEE値	Q値
S	****	素晴らしい	3.0以上	50以上
Α	****	大変良い	1.5以上3.0未満	-
B ⁺	***	良い	1.0以上1.5未満	-
B-	**	やや劣る	0.5以上1.0未満	-
С	*	劣る	0.5未満	-

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	***
30%超60%以下	***
60%超80%以下	***
80%超100%以下	合合
100%超	*

■ ライフサイクルCO。排出性能(ランク表示)



排出率

100%

		1000-20-20-20-20-		VOA TIME WATER TO S
-	44-		3.5	FT 4+ E
2	目に不			価結果

重点事項総合評価

評価点







70

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

(主点事項2) 女主女心で春らしゃりい社会の大り

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

72.9

61.2

60.0

80.6

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	66666
80点以上100点未満	6666
60点以上80点未満	666
40点以上60点未満	66
40点未満	•

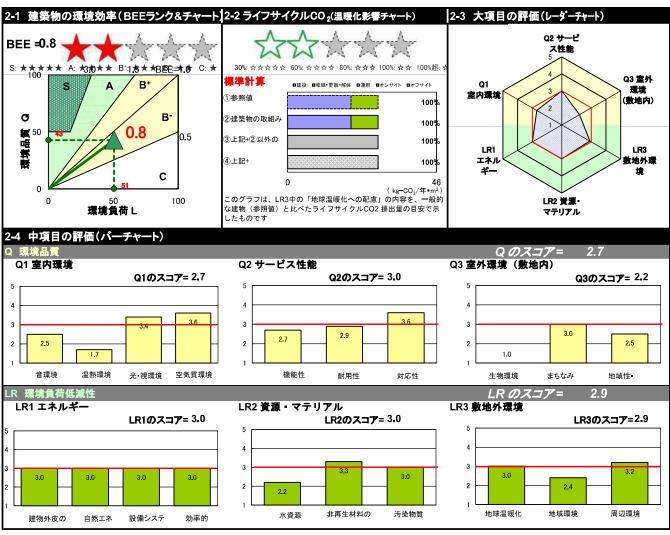
※評価点は、100点以上が推奨です。

【**八5B** E E - 建築(新

▮評価結果

CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要 1-2 外観 建物名称 (仮称)神水1丁目マンション 階数 地上11階、地下0階 建設地 熊本県熊本市中央区神水1丁目56 構造 RC造 用途地域等 市街化調整区域 平均居住人員 103 人 省エネ:地域区分 7地域 年間使用時間 8,760 時間/年(想定値) 建物用途 集合住宅 評価の段階 実施設計段階評価 2026年1月 竣工時期 予定 評価の実施日 2025年1月30日 敷地面積 作成者 BLOOM Architect office 701 m² 建築面積 確認日 324 m² 2025年1月30日 延床面積 2,565 m² 確認者 **BLOOM Architect office**





- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム) ■G: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
- イクルCOz」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
- ■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

スコ	アシー	 	実施設計段階						
配慮	項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
			境品質			0.40			2.7
	室内				2.0	0.40 0.15	2.7	1.00	2.7 2.5
·			番音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
	1.2	遮音			1.0	0.50	2.4	0.50	
			開口部遮音性能		1.0	1.00	1.0	0.30	
			界壁遮音性能 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	3.0 3.0	0.30 0.20	
			界床遮音性能(重量衝擊源)		<u> </u>	_	3.0	0.20	
	1.3	吸音	7 师是自己的(至至何子)(())			-	-	-	
2	温熱致				1.0	0.35	1.9	1.00	1.7
	2.1	室温制			1.0	0.71	1.7	0.50	
			室温 外皮性能		1.0	1.00	1.0 3.0	0.63 0.38	
			ゾーン別制御性		-	_	-	-	
	2.2	湿度制			1.0	0.29	1.0	0.20	
		空調力	式		-	-	3.0	0.30	
3	光・視	環境 昼光和	I E		2.7	0.25	3.6	1.00	3.4
	3.1			【 【共同住宅(共用部)】6.54%	4.2	0.30	4.0	0.30	
		1	昼光率	【共同住宅(住居部)】10.61%	5.0	0.60	5.0	0.50	
			方位別開口		-	-	3.0	0.30	
			昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
	3.2	グレア	対策 「	【 - 共同住宅(共用部)】無し	1.0	0.30	4.0	0.30	
		1	昼光制御	【共同住宅(住居部)】カーテン レール設置、バルコニー庇	1.0	1.00	4.0	1.00	
		照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
		照明制	御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4	空気	買環境 発生源	5 ÷+ dr		3.6 4.0	0.25 0.60	3.6 4.0	1.00 0.63	3.6
	7.1		化学汚染物質	【共同住宅(共用部)】 規制対象品は全てF☆☆☆☆ 【共同住宅(住居部)】 規制対象品は全てF☆☆☆☆	4.0	1.00	4.0	1.00	
	4.2	 換気		750 F 17-1 SKALING TO C. A. A. A.	3.0	0.40	3.0	0.38	
			換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
			自然換気性能			-	3.0	0.33	
	40	3 運用管	取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
	4.3		r理 CO₂の監視		-			_	
			喫煙の制御			-		_	
		ビス性	能		_	0.30	-	•	3.0
1	機能性		はいりナナ		2.4	0.40	2.8	1.00	2.7
	1.1		E・使いやすさ 広さ・収納性		3.0	0.40	3.0	0.60	
			高度情報通信設備対応			_	3.0	1.00	
		3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
	1.2		E■快適性 ☆☆ば、見知	【共同体学/体展部》】下共享、9.6%	1.0	0.30	2.5	0.40	
			広さ感・景観 リフレッシュスペース	【共同住宅(住居部)】天井高: 2.6m	+	-	4 . 0	0.50	
		$\overline{}$	内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
	1.3	維持管	理		3.0	0.30		-	
			維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
0	基件 [2] A	<u>2</u> 生•信頼	維持管理用機能の確保		3.0 2.9	0.50	-	-	2.9
2			1生 免震•制震•制振		3.0	0.50		-	2.3
			耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
			免震 制震 制振性能		3.0	0.20	-	-	
	2.2		部材の耐用年数		3.1	0.30		-	
			躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0 2.0	0.20 0.20		_	
			主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	_	-	
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
			空調・給排水配管の更新必要間隔	【建物全体】給水·排水·給湯:B	5.0	0.20	-	-	
	0.4		主要設備機器の更新必要間隔 -		3.0	0.20	-	-	
	2.4	信頼性	E 空調▪換気設備		2.6 3.0	0.20 0.20	-	-	
			上調 投风改幅 給排水•衛生設備		2.0	0.20		-	
			電気設備		3.0	0.20	-	-	
			機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
		5	通信•情報設備		2.0	0.20	-	-	

3.1	性•更新性						
			3.0	0.30	3.8	1.00	3.6
	空間のゆとり		-	-	4.6	0.50	
	1 階高のゆとり	【共同住宅(住居部)】階高:3.11m		-	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ	【共同住宅(住居部)】0.1≦0.25<0.3		_	4.0	0.40	
		PARTICIPATION SOLVED COM					
	2 荷重のゆとり	4		-	3.0	0.50	
3.3	3 設備の更新性	_	3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
	2 給排水管の更新性	1	3.0	0.20	_	_	
	3 電気配線の更新性	1	3.0	0.10		_	
		-					
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外	環境(敷地内)		_	0.30	-		2,2
	環境の保全と創出		1.0	0.30		-	1.0
			4				
	はみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
	性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
	物の環境負荷低減性					_	2.9
				-			
LR1 エネ				0.40	-	-	3.0
1 建物组	外皮の熱負荷抑制		3.0	0.20		-	3.0
2 自然:	エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
	システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 1.00	3.0	0.50		_	3.0
		LOCATION - INVO			10000 1000000 1000000 1000000 1000000		
4 効率			3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	
	4.1 モニタリング	1	-	-	_	-	
	4.2 運用管理体制	1					
		-	-			-	
	集合住宅の評価	_	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	- 1	-	
	4.2 運用管理体制	1	3.0	0.50	-	_	
I Do Aras	・マテリアル			0.30		-	3,0
			-		-		
1 水資	源保護		2.2	0.20	-	-	2.2
1.1	節水		1.0	0.40	-	-	
12	2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		_	
'		-	3.0	0.70			
					- -	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再	生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
			2.0	0.10	-	-	
		1					
	2 既存建築躯体等の継続使用	4	3.0	0.20	-	-	
	3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	
2.4	▶ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	持続可能な森林から産出された木材	_	_				
95			3.0	0.10			
2.5	7 対似可能な森体がら生田で40に小物	【建物会体】	3.0	0.10	-	-	
2.5	7 行帆可能な林怀がり座山で40元小物	【建物全体】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3.0	0.10	-	-	
		・躯体と仕上材が比較的容易に			-	-	
	3 部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 5.0	0.10		-	
		・躯体と仕上材が比較的容易に			-		
2.6	3 部材の再利用可能性向上への取組み	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0	0.20			3.0
2.6	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0	0.20	-	-	3.0
2.6 3 汚染 ⁴ 3.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30	-	- -	3.0
2.6 3 汚染 ⁴ 3.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0	0.20	-	-	3.0
2.6 3 汚染 ⁴ 3.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30	•	- -	3.0
2.6 3 汚染 ⁴ 3.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70	•	- -	3.0
2.6 3 汚染 ⁴ 3.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等)	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0 3.0 - 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50		- - - -	3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50	-	- - - - -	
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 -	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.30	-	- - - - -	2.9
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	5.0 3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50	-	- - - - -	
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球	3 部材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 -	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.30	-	- - - - -	2.9
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 ³	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 2.4	0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.50 0.33 0.33		- - - - -	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 ³ 2.1	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0	0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25	-	-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 2.4 3.0 2.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0	0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25	-	-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 2.4 3.0 2.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 - 3.0 3.0 - 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染 ¹ 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.1 2.2 2.3	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.2 2.3	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 環境への配慮	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.2 2.3	3 部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 1 大気汚染防止 2 温熱環境悪化の改善 3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 5環境への配慮	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 分環境 温暖化への配慮 現境本の配慮 大気汚染防止 2 温畅環境悪化の改善 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 環境への配慮 騒音・振動・悪臭の防止 1 騒音	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.20 0.33		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 分環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球; 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 分環境 温暖化への配慮 現境本の配慮 大気汚染防止 2 温畅環境悪化の改善 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 環境への配慮 騒音・振動・悪臭の防止 1 騒音	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.20 0.33		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染! 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 分環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.2		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染! 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2 2.3	 高部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 1 高水排水負荷低減 2 活水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 2 振動・悪臭の防止 1 騒音 2 振動 3 悪臭 2 風害、砂塵、日照阻害の抑制 	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.40 1.00 - 0.40		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染! 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 2 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 分環境 2 無数環境への配慮 現域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 2 振動 3 悪臭 1 風害の抑制 1 風害の抑制	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.2		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染! 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2 2.3	 高部材の再利用可能性向上への取組み物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境 温暖化への配慮 環境への配慮 1 高水排水負荷低減 2 活水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 2 振動・悪臭の防止 1 騒音 2 振動 3 悪臭 2 風害、砂塵、日照阻害の抑制 	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 2.7 3.0 3.0 3.0 3.0 2.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.40 1.00 - 0.40		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染! 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地球 2 地域 2.1 2.2 2.3	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 - 0.40 1.00 - 0.40 0.70 -		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新する 新す	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法)	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33 0.40 1.00 - 0.40 0.70 - 0.30		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避 有害物質を含まない材料の使用 フロン・ハロンの回避 1 消火剤 2 発泡剤(断熱材等) 3 冷媒 外環境	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法) ・再利用できるUBの使用	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 - 0.40 1.00 - 0.40 0.70 -		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新する 新す	・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法) ・再利用できるUBの使用	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避	 ・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(GL工法) ・再利用できるUBの使用 【建物全体】 ・光害対策ガイドラインのチェック 	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 4.4	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25		-	2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新する 新す	 ・躯体と仕上材が比較的容易に 分別可能(GL工法) ・再利用できるUBの使用 【建物全体】 ・光害対策ガイドラインのチェック リスト過半を満たす 	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.25 0.33			2.9 3.0 2.4
2.6 3 汚染: 3.1 3.2 LR3 敷地 1 地域; 2.1 2.2 2.3 3.1 3.1	新材の再利用可能性向上への取組み 物質含有材料の使用回避	 ・躯体と仕上材が比較的容易に分別可能(GL工法) ・再利用できるUBの使用 【建物全体】 ・光害対策ガイドラインのチェック 	3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 2.4 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 4.4	0.20 0.20 0.30 0.70 - 0.50 0.30 0.33 0.33 0.25 0.50 0.25			2.9 3.0 2.4

建物名称 (仮称)神水1丁目マンション

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

	熊本県重点	评価結果			级	合評価点	70
重	点事項					重点事項	43.70 X 1
	重点項目(配加	隊項目)	スコア	重み 係数	評価点	重み係数	評価配点
1	温室効果ガス	排出量削減の推進					
	Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00			
	Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
	Q1-3.2.1	昼光制御	3.4	0.05			
	LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.16	72.9	0.40	29.16
	LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.21			
	LR1-3	設備システムの高効率化	3.0	0.32			
	LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11			
	LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.11			
2	② 安全安心で暮らしやすい社会の実現						
	Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
	Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25	61.2	0.20	12.24
	Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15	01.2	0.20	12.24
	Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
	LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
3	県の地域資源	の有効活用と保全					
	Q3-2	まちなみ■景観への配慮	3.0	0.20			
	LR2-1.1	節水	1.0	0.30	60	0.20	12.00
	LR2-1,2,1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
	LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
4	循環型社会の						
	Q2-2.2	部品•部材の耐用年数	3.1	0.30			
	Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30	00.6	0.00	16 10
	LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10	80.6	0.20	16.12
	LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
	LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点×各重点事項の重み係数)の総和 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア×各重点項目の重み係数)の総和×(5/4)×20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20:スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

印刷:モノクロ 設定済み ・適宜、箇条書き等で記入してください。

■キーボード操作: 改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

	計画上の配慮事項 ※必ず、何らかのコメントを記入してください。
	良好な景観になるよう外観の色調などに配慮し、建物周りには花壇を設置し、屋上にはルーフ
総合	及好な京観になるようが眺めた高はというというでは、他様と改画し、産工にはルークバルコニーを計画した。
	 •屋根、外壁など外部に接する部分は断熱材を設置し、各住戸に開口部もできる限り大きくとる
Q1 室内環境	「・屋根、外壁など外部に接りる部分は断熱材を設直し、各住戸に開口部もできる限り入さくとることで居住者の快適性に努めた。 ・規制対象品は全てF☆☆☆を使用。
	・居室の天井高を2.6m以上確保し、居住者にゆとりのある空間を提供することに努めた。
Q2 サ ー ビス性能	
	 ・敷地内に花壇、ルーフバルコニーを計画とした。
Q3 室外環境 (敷地内)	
	 •外部に面する部分は断熱材を設置し、空調負荷の軽減に配慮した。
LR1 エネルギー	
LR2 資源・マテリアル	・躯体と仕上材を容易に分別できる設計仕様とし部材の再利用に努めた。 ・断熱材や空調機冷媒には、環境負荷の少ない材料を選定した。
	 ・敷地内に十分な駐車、駐輪スペースを設け、居住者の利便性に努めた。
LR3 敷地外環境	
その他	